



# 別寒辺牛

2013年3月発行  
NO.28

右のイラストは、「ミコアイサ（巫女秋沙）」です。厚岸では春、秋の渡りの季節に多く見られ（年により100羽から500羽程）、その一部は厚岸湖で越冬しています。白と黒のコントラストは鮮やかで、遠くからでもよく目立ち、カメラマンからの人気もあり、その風貌から「パンダガモ」と呼ばれることもあります。

最大500羽という飛来数は、おそらく日本で一番ではないでしょうか。以前、環境省では全国の自然観察施設ごとに、そこのシンボルともいえる鳥のシール（ワッペン）をつくりましたが、厚岸水鳥観察館はこの「ミコアイサ」が選ばれています。機会がありましたら、ゆっくりと湖を眺めていただければ、きっと見つけることができるでしょう。



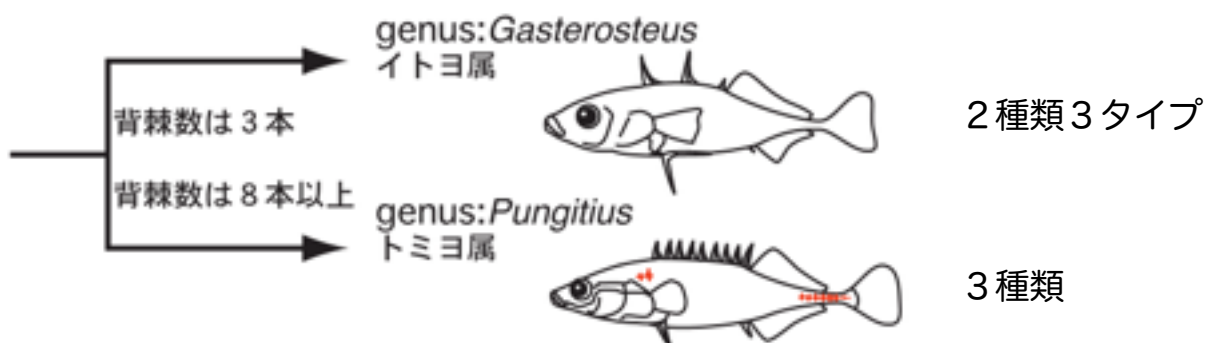
ミコアイサ(オス)

## トンギョのお話

今、生物の研究者の間では、厚岸の「トゲウオ（トンギョです）」が世界的にも注目されています。何だかピンとこないかもしれませんね。厚岸にはイトヨ（背中のトゲが3本のトンギョ）が日本海型と太平洋型（さらに遡河型と残留型）の2種類3タイプ、トミヨ（背中のトゲは8本以上）が淡水型、汽水型、エゾトミヨの3種類の併せて6タイプのトゲウオが棲んでおり、世界的にも極めて珍しい生息地なんです。トゲウオの生態等の研究は脊椎動物全体の遺伝、進化の解明にも繋がり、厚岸のことを「東洋のガラパゴス」という研究者もいるほどです。

厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助事業では、平成11年から今でも継続的に研究が行われています。これからは、欧米の研究者もたくさん厚岸町を訪れることでしょう。厚岸町には、地元の我々も気づかない自然がまだまだあるのです。

## Gasterosteidae トゲウオ科



## 平成24年度やちっこクラブ活動報告

平成21年度から、町内の子供たちを対象とした会員制の自然体験クラブとしてスタートした「やちっこクラブ」。今年度は16人のキッズレンジャーに保護者16人が、サポーター9人、協力員5人と一緒に、月に1回のペースで、厚岸の自然について楽しみながら学習してきました。今年度は北海道大学厚岸臨海実験所の協力を得て、厚岸の環境とは切っても切れない「海」の体験学習プログラムも盛り込み、より充実した活動になりました。今年度の活動内容は以下の通りです。

- 5月 ● やちっこクラブ開会式
- 6月 ● 北海道フラワーソン2012に参加。30種類以上の花の咲いている植物を確認。
- 7月 ● 別寒辺牛川のカヌー下り
- 9月 ● 厚岸臨海実験所の実習船「えとぴりか」に乗船し、アイニンカップにある世界最大のオオアマモ場の生物を採集、観察
- 10月 ● 別寒辺牛川のカヌー下り  
● 濤沸湖で行われた、2012ラムサール子ども交流会に参加
- 12月 ● 渡り真っ最中のオオハクチョウ観察
- 1月 ● 厚岸湖の水鳥調査
- 2月 ● 全道一斉海ワシ類調査

平成25年度も、子供たちが楽しめるようなプログラムを企画中です。募集要項は別途案内しますので、ご興味のある方は水鳥観察館までお問い合わせ下さい。



北海道フラワーソンで咲いている花を捜索中！



秋のカヌー、花咲線鉄橋手前にて

ラムサール条約登録湿地 厚岸湖・別寒辺牛湿原 厚岸水鳥観察館だより

あっけし みずどり かんさつ かん

# 厚岸水鳥観察館

☎088-1140

北海道厚岸郡厚岸町サンヌシ 6 6 番地

TEL&FAX (0153) 52-5988

E-mail: [bekan@tiara.ocn.ne.jp](mailto:bekan@tiara.ocn.ne.jp)

URL: <http://www.akkeshi-bekanbeushi.com/>